

---

## 春男の頭の中 6

てるり

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

春男の頭の中 6

### 【Nコード】

N5298A

### 【作者名】

てるり

### 【あらすじ】

春男の考える透明人間とは。春男を幽霊にするわけにはいかなさそうだ。

## 幽霊

怪談の話が増えるこの時期、オレにはあまり関係ない話だ。信じ  
ていないとか、そういうわけではなく見えないだけの話だ。

それがオレは今、たくさん怪談の話が載った本を抱えている。これ  
を持って春男の家に行くところだ。今回、怪談を書くらしい。オレ  
に幽霊は関係ないけれど、春男はどうだろう。

普通はそんなに作家の家など行かない。ところが、三代目の編集  
者からオレに変わったとき、真面目だった彼はオレに手紙をくれた。  
いわば、春男の注意事項だ。そのなかにあったのが、一週間に一度  
は必ず春男の家に行つて、原稿を本人から貰つてくるということだ  
つた。

ファックスにしてもらうと、送るのが面倒になったり、何度も読  
み直しているうちに全部消してしまうということが春男にはあるか  
らだ。貰つてしまえばこっちのものだ。

はつきり言つて、原稿が出来上がらないことの方がオレには怖い。  
「もつてきたぞー。」

「ああ、ありがとう。そこに置いてくれる？」

オレはいつも資料が置いてある机にのせた。もうすでに、いくつ  
か置いてある本が開かれていた。その本の下に新しい本を置いた。

「ねえ、透明人間は目が見えるのかなあ？」

「見えるだろ？見えなきゃ、話にならないだろうが。」

「でも、その目も、映すレンズも透明なんですよ。」

どうも、春男の考え方はよくわからない。どうしてそんな考えに  
達したのだろうか。

「そうじゃなくて、人から見たときにだけ透明なんだろう？」

「ああ、そっか。そうか、おかしいなあと思つてたんだ。見えない

のに、どうやって人を驚かせるのかと思って。存在はあるんだね。」  
春男はちよつと納得したようだった。

「幽霊じゃないんだぞ。人から見えないだけだ。」

別にオレが透明人間に詳しいわけではない。たぶん常識範囲だ。

「じゃあ、すり抜けていくわけじゃないのか。事故にあつたら大変だね。」

「まあ、見えないんだから、そうだろうな。」

オレはぼんやりと、透明人間が事故にあつたところを考えた。血も透明なのだろうか。

「透明になつたらいいことあるかなあ。」

夢を見るような口調で春男が言った。なにやら、楽しそうな顔をしている。

「なりたいのか？」

「そうなつたら、僕が原稿を打っている横で君が宣伝すればいいんだ。誰もいないのに、勝手に文字が打ち込まれます。幽霊の書く原稿ですつて。本が売れるかも。」

「それは詐欺というもんだ。それに、幽霊が怪談を書いてどうするんだよ。怖がつて、逆に誰も買わなくなるかもしれないぞ。」

「それもそうか。今回は幽霊の話にでもしようかなあ。」

「いいから、さっさと怪談を先に書け。」

「わかつたよ。ところで、真ん中に一つしか目がない場合はどれくらいの範囲が見えると思う？」

オレは、どれくらいだろうと考え始めた。

「なつたことがないから、わからん。」

今から怪談の話や幽霊の話に変えられても困る。次々に書きたいテーマが浮かぶのは構わないが、話が途中で変わられると困るのはオレだ。怒られるのもオレだ。謝るのもオレだ。

オレは春男の後ろ姿を見ながら思った。春男にも幽霊は関係なさそうだ。それにだ。春男が透明人間になつたら、オレに見えないと思つて仕事をさぼるに違いない。それは避けたいところだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5298a/>

---

春男の頭の中 6

2010年12月2日10時48分発行